

国外実態調査報告書

テーマ : マレーシア実態調査 : 日系企業訪問、白門会交流会、多様な宗教・文化の体験
ゼミ名 : 栗原 文子ゼミ
調査日 : 2022年8月26日(金)～8月31日(水)
調査先 : HIS、rakuten tradeなどの日本企業、異なる民族からなる市場など
授業科目名 : 国際教養演習Ⅰ・Ⅱ
参加学生数 : 10名(3年生)

調査の趣旨(目的)

本調査の目的は主に以下の5点である。

1. マレーシアの日系企業を訪問し、多様な宗教・文化・民族的背景をもつ人々から構成される職場のマネジメントやコミュニケーションの方法について、インタビュー調査を行う。
2. イスラム教、ヒンズー教、仏教の寺院を訪問し、それぞれの宗教マナーや食事を体験し、異文化理解を深める。
3. マレーシア白門会の方々と交流し、マレーシアのビジネス事情について質問する。
4. 日本語学校を訪問し、日本語を勉強しているマレーシア人の生徒と交流する。
5. マレーシアのショッピングモールやスーパーで日本料理や日本文化の受け入れ状況を視察したり、Grabなどの利用を通じて、デジタル化が進むマレーシアについて理解を深める。

調査結果

参加学生は自ら日系企業や日本語学校訪問の手配を行い、インタビュー調査やプレゼンテーションを行った。また、中央大学白門会のOBの皆様と交流会を行い、マレーシアでの仕事や生活などについて質問をし、貴重な情報を得ることができた。異文化体験としては、博物館、モスク、ヒンズー教や仏教寺院など、様々な宗教の聖地を訪ねたり、ハラールフードや中華料理など多様な食文化を体験した。学生は全員レポートを提出し、それぞれの視点で学んだことを報告しており、以下に、ごく一部であるが、提出されたレポートから引用し、紹介する。

・マレーシアではタクシーの安さも大きな驚きだったが、それ以上にGrabというアプリの使い勝手の良さにも驚いた。Grabは東南アジアでかなり大きいシェアを誇っているが、その背景には電車が無い故の車社会であることが理由として挙げられるだろう。本来であれば電車が無いことはマイナスと考えられるが、電車を広めるのではなく車という手段にスポットを大きく当てていくことは破壊的イノベーションとすることができ、途上国でのビジネスチャンスの活かし方というものを肌で感じる事ができた。

・当たり前だとは思いますが、自分の方がマレーシア人の職員の方より偉いといった態度で現地

の従業員と接しては絶対にダメだと仰っていた。そのような態度だったら、従業員も不満に感じ、ついてきてくれないとのことだった。また、英語で話すより、マレー語で話した方がマレーシア人従業員も良く接してくれると仰っていたことが印象的だった。私自身も、将来のキャリアとして、チャンスがあれば東南アジア諸国など海外で駐在員として働きたいと考えているため、大変勉強になった。

・一番印象的だったことは、ほとんど残業しないということだ。残業がある場合と、残業がない場合の働き方の違いを知ることができた。考え方の違いとして、マレーシアではいかに時間内に終わらせられるかが美德とされ、日本ではいかに長く働いたかが美德とされる。その日のタスクを決めるにあたって、優先順位をつけることがとても大切であると言っていた。

・私たちは、前期の授業で学習した Hofstede の cultural dimension に関連した、日本とマレーシアの見えない文化の違いと、食文化の違い、日本の観光地について簡単にプレゼンテーションを実施した。生徒たちは皆日本に興味があるので、とても興味深そうに合間で質問を頂きながら、お互いにとってとても有意義な時間になったと感じた。この交流会を通して、語学勉強に対する姿勢が変化したと感じている。それは、午前中の授業で、生徒が日本語の似たような意味の言葉に対して、「この2つは何が違いますか？」などと積極的に理解していく姿勢にとても感心したからである。私は普段何気なく使っている単語が、ほんの少しのニュアンスの違いを言語化することの難しさ、また、言語化できた時の理解度の違いを知ったのだ。



クアラルンプール到着！



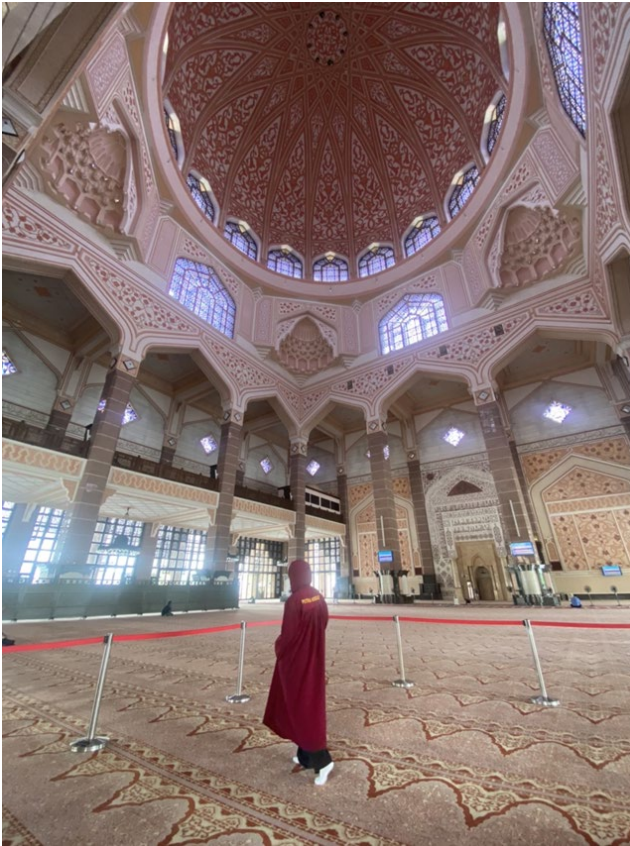
屋台街（アロー通り）



白門会のOBの皆さんと交流会



日本語学校の生徒たちとの交流会
(プレゼンテーション)



プトラモスク (ピンクモスク)